

## <発症>

インフルエンザウイルスの感染によって引き起こされます。A型、B型、C型の3つの種類があり、日本で冬に流行的な広がりを見せるのはA型とB型で、**季節性インフルエンザ**とも呼ばれます。



## A型とB型は“亜型”の数が違う

A型とB型の違いは、ウイルスの“亜型”の多さです。ウイルス表面 HA と NA という2つの蛋白質を持っており、保有するたんぱく質の組み合わせが異なるものを“亜型”と呼びます。流行する亜型は数年～数十年おきに变化し、2019年時点で流行している**A型の亜型であるH1N1型及びH3N2型と、B型(ビクトリア系・山形系)の3種類**です。(図2)

C型インフルエンザウイルスは感染しても軽症で済むことが多いため、検査・診断されることは稀です。

## <症状>

A型とB型では、発症パターンや特徴的な症状が異なります。「B型＝軽症」というイメージがありますが、医学的根拠のない誤解です。通常の流行パターンは「**シーズン前半にA型、後半にB型**」ですが、今シーズンはA型の流行が約2か月前倒しで10月から始まったため、B型への置き換わりも1月時点で急速に進行しています。B型は初期に胃腸炎と誤診されるケースもあるため、消化器症状がある場合も注意が必要です。

比較項目	A型	B型
発症パターン	急激に悪化(数時間で高熱)	比較的ゆっくり悪化
典型的な熱	38～40℃(高熱が特徴)	微熱～38℃台(39℃もあり)
特徴的な症状	悪寒、関節痛、筋肉痛、頭痛	消化器症状(腹痛・下痢・嘔吐)が多い
潜伏期間	平均 約1.4日	平均 約0.6日(やや短い)
感染力	非常に強い(変異が速い)	やや穏やか(ヒトのみに感染)
今季の特徴	サブグレードK変異株(鼻水・咳が目立つ)	1月末から急増、B型C.3re亜系統